

# コミュニティ

# くま

私と人とまちの間に

2025.JAN  
142号 1

編集発行  
公益財団法人 草津市コミュニティ事業団



2025年。スポーツ大会「わたS H I G A 輝く国スポ・障スポ」が4年ぶりに湖国に戻ってきます。草津でも水泳・バレーボール・軟式野球・ソフトボールなどの熱戦が繰り広げられます。観客として声援をおくるもよし、ボランティアとして関わるもよし、あなたはどっち派？ yokkoさん(P8)が歌う大会イメージソング「シャイン!!」は私たち一人ひとりにエールをくれる元気曲、名曲です。

## もくじ CONTENTS

### FEATURE

# 私にイイコト、まちにイイコト。

- 2 制服のリユース活動 さくらや草津
- 4 先生は中学生! 大路スマホ相談会  
そうだ。それ、クボタくんに訊いてみよう
- 6 まち語り 一枚の写真
- 7 ご近所まんが くさつがわ家とお隣さん ~これって、みんなの問題~
- 8 もじうめスッキリ  
事業団からのお知らせ  
ボイス

### ダンス! ダンス! ダンス!

胸の鼓動と仲間の呼吸。一人ひとりの動きがシンクロする。音が止まった一瞬の後、眼に、耳に、届く拍手と歓声。楽しい! 舞台上立つ緊張感と、歌・踊り・演技で自分を表現する楽しさが大好き。草津歌劇団。舞台での心得や礼儀から始まった厳しいレッスンの集大成となる創作ミュージカル「記憶絵の中に」の公演は3月です。(P8)

# その想いをバトンタッチ！制服のリユース活動

## さくらや草津

代表 坪宏美さん(47歳)

カタカタと大きなランドセルを背負って走る小学一年生。どこか体に馴染んでない制服姿の新中学生。思わず目を細める春の風物詩ですね。今日から少し大人に近づいたような、どこか誇らしく、どこか気恥ずかしいような気持ち。いつ見てもほほえましい光景です。でも、その光景はいつしか日常に溶け込み、やがて制服もランドセルも役目を終える日がやってきます。

「“ありがとう”の反対となる言葉は“あたりまえ”なんだとか。「ありがとう」は漢字で“有難う”。「あるのが難しいこと。滅多にない貴重なこと」って意味があるそうです。なるほど、だから反対は「あたりまえ」になるわけなんですね。

今号はフツーに当たり前と思ってされている活動が、多くの「ありがとう」につながっているお話です。

「あたりまえ」と「ありがとう」2つのコトバ。反対の様でもあり、一對の様でもあり。



▲イメージ

てしみじみしたり。それはまるで魔法のアイテムです。でも、子どもの成長は本当に早いもの。あの日にはまだ大きかった制服も、子どもの成長がグングン追い越して、気がつけばサイズが合わなくなってしまうなんてこともよく聞く話です。

そんな、子どもや親の思いが詰まった制服、あなたはどうしていますか？

大切に保管する人、思い切った処分する人。なかには「子どもの思い出の品を捨ててしまうのには抵抗があるけど、あげる人もいないし」なんて人も多いようです。

でも大丈夫。草津には制服のリユース活動「さくらや草津」があります。

### 捨てられないモノ

日々成長する子どもの節目となる日は、親にとっても感慨深いものです。初めてのランドセル、初めての制服……。

毎日近くで見ていたはずの子が急に大人びて見えたり、「もうそんな歳になったんだなあ」なん

「少し前なら家族や近所で、

### 幸せの循環

提供してもらった学生服は状態ごとに仕分けと査定を行い、

年上の子から年下の子へとモノを回す「お下がり」や「おゆずり」というものが普通にありました。愛着ある品を次の人にも大切に使うってほしい、って気持ちが根っこにあったんだと思います。このリユース活動でもそんな気持ちを大切にしています」と坪さん。

「さくらや草津」と言うとお店のように聞こえますが、店舗はありません。制服を提供したい人は直接連絡するか、協力してくれているクリーニング店、公共施設、大型店舗などに設置している「ツナグBOX」に入れてもらう仕組みです。提供してもらおうのは市内の幼稚園・保育園から県内の高校までの制服や体操服で、卒業後5年以内のものでお願いしています。



▲イメージ▶





クリーニングなど清潔に整えてから、HPでお知らせする流れです。

また、さくらや草津では制服を引き取る時の査定額と同額を子ども食堂を応援する制度（※）などに寄付する活動も一緒にしています。

「愛着ある制服を手放す人も譲り受ける人も、そして未来を担う子どもたちも幸せになる、そんな幸せの循環をつくりたい」と坪さん。

### だけじゃない理由

とは言え、制服やランドセルって、一度買えば長く使うもの。そんなに二、三つてあるものなんてしょ

うか？

「この活動を始めて3年目になりませんが徐々に知ってもらえて、今年は100件ほどお譲りできました。経済的な理由で、できるだけ出費を抑えたいって人も結構おられます」

坪さんは続けます。

「他にも、洗い替え用だったり卒業間近にサイズが合わなくなっちゃって新品を買うのをためらったり…と求めてくださる事情は様々です。

子どもが習字や図工で服や靴を汚したり、遊んで泥だらけになって帰って来たりした時に『あゝあ』って思いはするけど、できれば子どもを叱りたくないです。すよね。だから洗い替えも用意しておきたい。同じママとして気持ちが変わります」

「それに子どもって、毎日身に着けるものに対して頓着しないから親に言ってくれないこともしばしば。授業参観や運動会に行った時に、自分の子だけ体操服がピチピチだったり、上靴

のかかとを踏みつけていたりしてビックリしたこともありませ

（笑）」

なるほど、心当たりがあります（笑）」

### ピンクのランドセル

「こんなママもいました」と坪さん。「その家の男の子は、自分のランドセルの色が好きになれなかつたそうです。でも、おじいちゃんの入学祝の品でもあったので毎日背負ってました。しばらくして、男の子から実はピンクのランドセルを欲しかったことを打ち明けられたママはこの子の気持ちも大切にあげたいと、第2のランドセルとして求めてくれたんです」

また、不登校だった子のママからの提供もありました。

「うちの子はほとんど学校に行けなかつたので、きれいなままの制服です。ぜひ、次の人に使ってもらえたら…」

坪さんは言います。「みんなそれぞれ事情があります。頑張ってるママやパパを、その子どもたちを、気持ちの部分でも家計の面からも応援することができたら、この活動の意味があると思っています。提供してくれる人に

も、お譲りする人にも、お一人おひとりの事情に丁寧に寄り添ってあげれば…」

想いの詰まった制服たちが次

の人へバトンタッチされていきます。

さくらや草津に集まってきた制服や体操服は現在1,500点を超えました。自宅だけでは入りきらず、知り合いの家も借りて次への出番に備えているのだとか。「今はHPやSNSでその都度、入荷状況をお知らせしていますが、いつかは店舗を持たらなつて。女子高生にはやっぱり試着室も必要です（笑）。

お譲りする時には必ず、求めておられる制服の学校に通っていることを確かめてからお渡ししています。趣味で制服を集めている人にはお渡しできません。

今、一緒に活動してくれる仲間を募集中です。また、ランドセルの譲渡会ができる場所やイベント情報の提供もありがたいです」

どうやら、さくらや草津で扱っているのは制服やランドセルといった目に見えるモノだけではなさそうです。ここ草津にある現代の「お下がり」「おゆずり」には、あつたかさが一杯です。

坪宏美さん



さくらや草津

HP <https://www.seifuku-sakuraya.com/blog/shigakusatsu/>

ランドセルの寄付・譲渡については直接相談してください。



活動の様子は、えふえむ草津草津市コミュニティ事業団提供「くさつ☆コミュニTea Time!」オンデマンド放送でもお聞きいただけます。第51回(2023年12月)放送



# そうだ。それ、クボタくんクボタくんに訊いてみよう

## 大路区まちづくり協議会 スマホ相談会

ニュース、天気予報、音楽、買物、読書、交通、運動、健康、ゲームにSNS……。あなたは、どんな場面でスマホを使っていますか？

今や生活のあらゆるシーンで“スマホ”は欠かせないものとなりました。とっても便利な反面、設定や操作の仕方に困ってしまったなんて経験、誰にでもあるのでは。

そんな時、あなたならどうしますか？ 身近に訊ける人……って、いますか？



▲イメージ

### 先生は中学生

ここ、大路まちづくりセンターの会議室に高齢者の皆さんが集まっています。

入るなりスマホを触りだす人、説明書のようなものを広げる人中にはパソコンをセッとする人も。今日は月に一度のスマホ相談会。なるほど、皆さん先生に訊くための準備をしていたのですね。

少し慌てた様子で中学生らしき男の子が入ってきました。彼は部屋を間違ったわけではなく、その証拠に「クボタくん、今日も頼むわな」と高齢者の皆さんから声がかかります。

そう、このスマホ相談会、先生はなんと、中学生なのです。クボタくんこと久保田凌右りょうすけさんは現在、草津中学校に通う中学3年生です。

### その？を！に

「ナビ案内の仕方がわからない」「電話の声を大きくしたい」「スマートウォッチで駅の改札を通りたい」「スマホで撮影した写真をまとめてパソコンに送りたい」……。

一人ひとりのスマホの困りごと

に耳を傾け、丁寧に伝えていくクボタくん。このスマホ相談会は昨年2月から始まったとあって、まるで家のリビングで孫にスマホを教えるもらっているようなアットホームな雰囲気です。

とは言え、クボタくんでも全ての「？」に答えられるわけじゃありません。そんな時は一緒に考えて考えることになるので、どうしても時間がかかります。

でも大丈夫。今日はクボタくんの後輩4人の女子も助っ人に来てくれました。「久保田先輩が地元でスマホ相談会をしてると聞いて、興味もあって手伝いに来ました」なんと心強い。

### 当たり前を伝える難しさ

今の中学生って、物心がつく頃にはすでにインターネットやスマホが身近にあった世代。それでも、見知らぬ大人、しかも人生の大先輩に教えるなんてさすがに物怖じしそう。

「来てくれる皆さんは誰でもフレンドリーに話しかけてくれるので助かります。逆に地元のことを教えてくれたりして、もう顔なじみになった人もいます。この活動を始めるまで、自分に

とって、当たり前なことを、人に伝えることがこんなに難しいとは知りませんでした。今は根本の部分を解ってもらえるよう、できるだけ簡単な言葉で伝えるようにしています。カタカナ単語を並べたりしてもかえって遠回りになることが分かってきました」とクボタくん。

### 家族にも訊けない

相談会に参加した人の声です。「クボタくんは私たちのペースに合わせてゆっくり説明してくれるので助かります。クボタくんに横についてもらいながら自分で操作。帰ってから家でもやってみる。それでも忘れてしまうこともあって(笑)、また翌月、同じことを尋ねたりしてね。何度同じことを訊いても大丈夫という安心感が嬉しいですね」

別の参加者は「私もそうです。子どもや孫に勧められてスマホを持ったという高齢者も多いんです。スマホって便利なんですけど、ちよつとした操作が分からなくて先に進めなくなってしまう。家族だからって何度も同じことを訊くのは気



が引けるものなんです。最近販売店の相談サービスも有料になったりして。本当にちよつとしたことを訊きた



久保田凌右さん(中3)



▲イメージ

「ただけなので、クボタクンには大いに助けてもらってます」

「なんだかすごいぞ、クボタクン！」

### 中学生だって

それにしても中学生が高齢者を手伝うスマホ相談会とは、なんともユニークです。きっかけはクボタクンが職場体験でセンターに来た時に、職員さんから提案されたスマホ教室の企画。

この時、中学生だって地域の役に立てることがあることを知ったクボタクン。父親からも「若いうちから地域の人と交流を持ちなさい」と言われてたこともあって、「何かお手伝いしたい」と再度センターを訪れたのでした。

センターの職員さんの話です。「高齢者の中には、スマホを持っていても情報を上手くキャッチできていない人がいます。スマホの使い方をセンターに訊きに来る人も結構いたりして。この地域の困りごとにぜひ中学生の力を貸してもらえないかな、と提案してみました」

### 教えて教えられ

4人の助っ人女子にも、たくさんのお気づきがあったみたいです。「知り合いとLINEをしたって方を担当しました。でもLINEアプリを登録すると、色々な広告やメッセージも送られてくるから『自分の情報が洩れてるんじゃないか、知らない人から電話がかかってくるんじゃないか』と登録を躊躇ちゅうちゅうされるので、どう伝えたら安心してもらえるのかと悩みました」

便利さと不安の間で葛藤する高齢者の気持ちがよくわかります。

「(高齢の)皆さんと中学生の私たちでは、スマホを使う場面が違うことに驚きました。私たちが友だちとのやりとりだとか気軽な場面が多いけど、皆さんは保険会社への申請など大事な手続きにもスマホが使われていました。保険会社から届いた説明書と一緒に見ながら設定してたんですけど、使われている言葉が難しかったので苦労しました。もつと簡単な言葉で説明してくれたら解るのにな、って。」

ペーパーレス化でスマホでの手続きを勧めるんだらうけど、高齢者には書類も大切だと感じました」

「私は年金の通知設定をした、という方を担当しました。私自身、今日初めて『年金』という言葉聞いたので、逆にその仕組みを教えてもらって勉強になりました(笑)。今度、自主学习で調べてみようかな、って思ってます」

「私は家族以外の高齢者と話すことがなかったもので、とても楽しい時間でした。私たちの説明なんかにも丁寧にメモを取ってくれたりして。私も地元の学区のセンターで始めてみようかな、って思っています」

いやはや、脱帽です。

活動の様子は、えふえむ草津  
草津市コミュニティ事業団提供  
「くざつ☆コミュニTea Time!」  
オンデマンド放送でもお聞きいただけます。



## 心強い! 助っ人4人組



小森香凜さん  
(中2)



中村悠莉さん  
(中2)



森 笑李さん  
(中2)

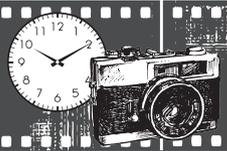


楠野陽香さん  
(中2)

まちにはたくさん、そして様々な立場の人がいます。そう、中学生だって、まちづくりの大切なプレイヤー。このまちを良くしていくために欠かせない存在なんですね。相談会に来た高齢者の笑顔が素敵でした。何歳になっても「知る・できる・上達できる」ことって嬉しいもの。

そうだ。それ、クボタクンに訊いてみませんか？

# まち語り 一枚の写真



まちのあらゆる場面で培われてきたコミュニティの形。その一瞬を捉えた一枚の写真から「これから、のコミュニティを見つめます。」

## 淡水真珠の養殖

昭和初期、草津市志那町の内湖・平湖・柳平湖で淡水真珠の養殖が行われていました。写真はその場面を撮影したものです。淡水真珠の養殖は、母貝のイケチョウガイの外套膜がいとうまくに真珠のもととなる核を入れ、内湖に簀すのこ囲いをした場所を作り、中に貝を地播あききました。3年経過したものをタモ網状の道具で水底より引き上げ、採取場で真珠を取り出しました。淡水真珠は海で養殖されるアコヤガイの採取率と比べると低く、品質も良くありませんでした。



草津における淡水真珠の歴史は、大正末期にまでさかのぼります。御木本真珠（三重県）の技師であった藤田昌世氏が、大玉の真珠ができる可能性のある淡水真珠養殖の実現を目指し、琵琶湖に着目したことから始まりました。藤田氏は、元常盤村長で元衆議院議員でもあった吉田虎之助氏の援助を受け、琵琶湖産の様々な貝類を使った試行錯誤の末、イケチョウガイが母貝として適していると明らかにしました。昭和2年には吉田虎之助氏を中心として民事組合「淡水真珠養殖研究会」が設立され、昭和10年には「淡水真珠養殖株式会社」へと発展しました。海外へも輸出していましたが、戦況の悪化により解散に追い込まれてしまいました。

戦後、淡水真珠の養殖は復活し、新しい技法である無核真珠を採用したことにより、高品質の淡水真珠が生産されるようになりました。

文・草津宿街道交流館

### ひとまちキラリ まちづくり活動助成採択団体・イキイキ活動賞授賞団体 決定!



#### ひとまちキラリ助成

はじめの  
いっぽ

- **とびら文庫** 本でつながるサードプレイス・とびら文庫
- **かきくるカー** うごく!ずこうしつ かきくるカー
- **こども食堂 おむすび** みんなで いっしょに 朝ごはん

そのさき  
いっぽ

- **い香か -ikoka-**  
専門家から学ぶ! 保護者と支援者が共に学び子どもを支える「学びの居場所」作り
- **草津保護区草津支部保護司会** みんなで考える、さいしょの一步
- **南草津マンション防災委員会**  
「あなたの防災 わたしの防災 深掘り講座」。大切な自助の周知。

いっしょに  
いっぽ

- **チャレンジド LIFE × しがいち防災研究所**  
共生社会への一步!!  
~外見だけでは分からない障害 × 防災から学ぶ~

#### イキイキ活動賞

いいね!  
地元の力

- **東室木町 ママ友会**  
矢倉学区
- **支え合い(愛)グループ en**  
老上西学区
- **平井西町ラジオ体操グループ**  
笠縫東学区
- **若草文庫**  
志津南学区

なるほど!  
市民活動

- **フードバンク滋賀**
- **草津手をつなぐ育成会**
- **くさつ未来プロジェクト**
- **NPO子どもネットワークセンター 天気村**

今年は  
どど〜んと  
8団体

問合せ (公財)草津市コミュニティ事業団 草津市大路二丁目1-35 キラリエ草津5F  
TEL 565-0477 FAX 565-0411 HP まちサポくさつ <https://www.kusatsu-spp.net/>

ひとりで悩まないで! まずはお電話を!  
くらしサポートセンターしが草津がお手伝いします



くらしサポートセンターしが草津  
くらし何でも相談  
TEL:077-564-5512

住所:草津市大路1丁目1-1 TEL:932 4F 4 0 6

電話がかかりにくい場合はこちらへ センターへの相談は無料です

滋賀県労働者福祉協議会くらしサポートセンターしが内  
0120-783-455 (くらし何でも相談専用)



株式会社 三井田商事

経営理念 迅速・確実・親切

弊社は2019年度からSDGsへの取組をスタートさせ、それを基盤にして社会貢献を通じて地域から愛される企業に成長していきます。清掃活動等で弊社社員は地域の皆様に大きな声で挨拶をします。

また、弊社は60周年を迎え、改めて今後も永続的に地域の皆様と共に成長していきたいと考えております。

滋賀営業所 / 〒525-0050 滋賀県草津市南草津2丁目7-16  
TEL:077-598-1611 FAX:077-598-1651

ご近所まんが

## くさつがわ家とお隣さん ～これって、みんなの問題～

かれこれ40年の「ふれあいタウン」。  
どこにでもあるようなこの町で、今日も繰り広げられる  
今ドキご近所のちょっとこなれた毎日。  
楽しくも少し考えてしまおう。  
もしかして…これって、みんなの問題かも。

他のおはなし▶



## 先生は…



さく・com-com / え・まんじゅう

## 草津市の魅力を発見! くらし、ささえる、地域のつながり

(公財)草津市コミュニティ事業団 × (福)草津市社会福祉協議会

**2/6(木) 14:00~16:00**  
キラリエ草津 6階



定員 100名程度  
参加費 無料(要申込)

コーディネーター

村田智美さん

(龍谷大学 社会学部現代福祉学科 特任講師)

### 事例紹介

- ・ 渋川学区まちづくり協議会 渋川なんでもやる会
- ・ 龍谷大学 学生ボランティア

### 問合せ・申込み

(公財)草津市コミュニティ事業団

☎ 565-0477 ☎ 565-0411

✉ com-com@mx.biwa.ne.jp

(福)草津市社会福祉協議会

☎ 562-0084 ☎ 566-0377

✉ info@kusa-syakyo.or.jp



## SUMAIDIA SDGs

環境のために、社会のために、私たちができること。

スマイディア(旧:スマイ印刷)は、  
「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同します。  
「関わる全ての人をSMILEに」という理念のもと、  
事業活動と社会貢献活動を通じて  
持続可能な社会の実現に貢献します。

**SUMAIDIA**  
株式会社 スマイディア(旧:株式会社スマイ印刷)

Instagram: sumaidia\_jp  
Twitter: @sumaidia\_jp

## 読売新聞



今こそ新聞を読む

**読売センター草津西** / 有限会社 雄  
〒525-0029 滋賀県草津市下笠町 1306-2 TEL:077-568-1165 FAX:077-568-3205  
ホームページは、[読売センター草津西](#)で検索! または、今すぐ右のQRコードにアクセス!





草津のまちづくりを応援!!  
**まちサポくさつ**



コミュニティくさつ 2025年1月号




草津歌劇団 2024



草津市市制施行70周年記念事業  
草津市コミュニティ事業団設立40周年記念事業  
草津歌劇団8期生 創作ミュージカル

## 記憶絵の中に

～きっかけの街くさつ～

第2部 ミュージカルショー

**3月2日(日)** A 11:00開演 B 14:30開演  
草津クレアホール (草津市野路六丁目15-11)

入場料 おとな 1,000円(当日1,500円) / 回  
高校生以下 500円(当日1,000円) / 回  
※全席自由

問合せ・申込 草津アートセンター 9:00~17:00  
TEL 561-6100 FAX 564-5851  
✉ 932art-c@kusatsu-art.center



草津アートセンターHP

# もじうめスツキリ

ウキウキ、ワクワクの春がやってきました。  
□に入る5文字を考えてね。

**問** (1) ピッカピカの1年生 □ンドセル

(2) 便利なアプリがいっぱい。今や手放せない スマ□

(3) 暑さ寒さも… おひ□ん

(4) ひな段で演奏している5人組 ごにんば□し

(5) 44年ぶりに滋賀県で開催のスポーツイベント □くスポ・しょうスポ

**応募方法**  
ハガキに①答えの5文字②住所・氏名・年齢・電話番号  
③今号の感想を添えて下記まで。FAX、メールでの応募  
もお待ちしております。

**必切** 1月31日(金) 必着  
**宛先** 〒525-0032 草津市大路二丁目1番35号  
(キラリエ草津)  
(公財)草津市コミュニティ事業団  
「コミュニティくさつ1月号」係  
✉ com-com@mx.biwa.ne.jp TEL 565-0411

**プレゼント**  
応募いただいた中から抽選で、  
キラリエ草津1F「MERC  
CAKE」(大路2丁目)で  
利用できる優待券  
(1,000円相当)を  
5名様にプレゼント



# ポイント 私の元気曲!

施設を利用するみんなの声と笑顔をお届けします。



「コミュニティくさつ」の経費(企画編集、印刷、折込など)は1部あたり15円です。この経費は事業団が行う公共施設運営管理(指定管理)などの経費縮減などで得る独自の収益金のほか草津市からの補助、市民の皆さんからの寄付および本誌に掲載している企業等の広告でまかっています。